


研究者総覧：伊藤 信博 (ITO, Nobuhiro)

氏名	伊藤 信博 (ITO, Nobuhiro)	
職名	助教	
所属講座	日本言語文化専攻	
学位（専攻分野）	博士（文学）・名古屋大学	
メールアドレス	itoh@lang.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/staff/itoh.html	
研究分野	比較文化史	
	食物史	
	美術史	
現在の研究テーマ	江戸の博物学史	
所属学会	説話文学会	
	宗教民俗学会	
主要著書・論文	『酒飯論絵巻』に描かれる食物について『言語文化論』第32巻第2号、名古屋大学、2011年	
	「フランス国立図書館所蔵の宣教師による西書漢訳著書について」『多元文化』第11号、名古屋大学、2011年	
	「フランス国立図書館所蔵の宣教師による漢訳著書目録について」『アジア遊学』127巻、勉誠出版、2009年	
	「植物の擬人化の系譜」『言語文化論集』第30巻第1号、名古屋大学、2009年	
	『果蔬涅槃図』と描かれた野菜・果物について『言語文化論集』第31巻第1号、名古屋大学、2008年	
自己紹介文	<p>自分では日本の思想史を研究しているつもりですが、いつの間にか食物や植物の研究者として認知されてしまっているようです。その原因になったのは、2010年1月にNHK教育テレビ『日曜美術館』で伊藤若冲の『果蔬涅槃図』に描かれた野菜や果物の解説をおこなったからでしょう。</p> <p>特に欧米からの問い合わせが多く、最近では、フランス国立図書館から助成金をいただき、酒や食物、果物が描かれる『酒飯論絵巻』の研究もおこなっています。</p> <p>また、江戸を通して、文学や絵などにどのように食物が描かれているか、その意図を文化史的に探っています。</p> <p>このような研究以外には、海外に流失した明治以前に出版された和本や絵巻・浮世絵等の調査を海外でおこなっています。特にフランス</p>	

国立図書館写本室には数多くの流失本が所蔵されており、シーボルト事件で有名な幕府天文方高橋景保がオランダ商館長に贈ったイエズス会宣教師制作の漢籍地図（1674年）の写本もあります。また、ギメ美術館附属図書館が所蔵する和本も調査しています。



チュニジアでの発表

このような研究からは、日本を含めた東アジアと西欧との交流の軌跡が見え、大変興味深いと思っています。この意味で、最近では西欧の影響を受けた江戸の博物学史の研究に力を注いでいます。

受験生へのメッセージ

美術を含めた文化史、文化交流史、食物史はまだ研究が進んでいない分野も多く、研究していてとても楽しいです。16世紀～18世紀の日本を含む東アジアの文化史を研究したい方は、ぜひお越しください。分かりやすく、楽しく、そして、明晰な研究を心がけています。

特に食物史は中国との関連で、研究が少ないのに、資料も豊富で研究しやすい分野だと思います。また、文学の中でも「争奇物」というジャンルがあり、

酒とお茶のどちらが良いとか、お酒と飯の優劣を競うなど、中国、日本それぞれに主題が似たような物語があり、同じように禅林で作られた物語が存在します。

このような作品を比較し、その上で、日本では、その物語が絵巻としても描かれているので、美術史的な視点、文学の視点でも研究できるのです。このようなことを考えると、文化交流史の研究が愉しく感じます。

加えて、涅槃図に普通は猫が描かれな



「和歌山県霊巖寺所蔵の涅槃図（江戸中期）」

すが、中国の宋代の画が室町時代に日本に入ってきて以来、日本でも猫が涅槃図に描かれることも増えるのです。なぜ始めは排除された猫が、描かれるようになったのかとか、仏陀が大根で象徴される理由、江戸時代において、病気のとき食べて良い野菜の資料調査、かまぼこの由来など研究が非常に身近ですから、個人の様々なアイデアが伸ばせる分野だと思います。